

茵芋

〔武江產物志〕遊觀〔躑躅石巖〕つじきりしま 染井植木屋立夏より三日頃 大窪邊 日暮里 上野穴稻荷 音羽護國

寺 千手院 千だがや

〔新撰字鏡木〕茵芋 岡豆々々志、又云、伊波豆々々自

〔倭名類聚抄木二十〕茵芋 本草云、茵芋、因于二音、和名仁豆、豆之一云乎加豆之

〔和漢三才圖會九十五〕茵芋 茵蕓 莞菹 卑共 和名仁豆々々之 一云乎加豆々々之

本綱、茵芋、雍州、絳州、華州、杭州有之、春生、苗高三四尺、莖赤、葉似石榴而短厚、又似石南葉、四月開細白花、五月結實、

莖葉苦溫有毒 茵芋、葶草、皆古人治風藥、爲妙品、近世罕知、

按、茵芋、和名有躑躅之號、詳未今躑躅類中無結實者、

〔物類品隲草三〕茵芋 和名ミヤマシキミ、所在ニアリ、弘景曰、莖葉狀似葶草而細軟、頌曰、春生、苗高三

四尺、莖赤、葉似石榴而短厚、又似石南葉、四月開細白花、五月結實、ト云モノ是ナリ、

〔古今要覽稿草木〕につ、じ 茵芋

につ、じ、一名をかつ、じ和名抄みやまきみ通名漢名茵芋も、上に出す山礬馬醉木と同じく、大寒

前よりも蓄を生じ、開くは雨水より啓蟄盛をなす、岡村尙謙曰、茵芋爾、都都之、和本草乎加都々々之上

俗に美也、末之岐美、此小木也、高一二尺、葉似葶草、兩兩相對、冬不凋、作穗、開花四瓣白色、後結實、生青

熟赤、大如南天燭子、即蜀本圖經、日華子所註是也、諸國深山幽隱之地有之、其乎加都都之、別是一種、

勅號記、茵芋乎加都都之、四月花白、本邦有赤紫白三種、又羊躑躅條云、之呂都都之、生深山といへる

は、躑躅のつ、じにして、この茵芋とは、絶て別なり、茵辛の和名につ、じをかつ、じの二説有は、

本草和名、和名類聚鈔ともに同して、共に羊躑躅の條下に附して、羊躑躅の和名いはつ、じもち

つ、じといへば、つ、じの類と思へども、今花信風山礬の類となして、大寒三候より春かけての